

瑞穂鯨城会ボッチャ体験会開催のお知らせ

瑞穂鯨城会 会長 中村吉雄

開催日 8月6日(土曜日)

時間 13時30分

服装 ごく軽い運動なので普段着で充分だと思います。

場所 汐路コミセン1F研修室(在宅SCの棟続き南側)

経緯：5月の鯨城学園代議員会でボッチャ広め隊渡部克己さんが、各区の鯨城会で是非ともボッチャを知って積極的に広めてもらいたいとの話が有り、この度渡部克己さんご指導のもと体験会を開催する事になりました。

8月の連絡協議会で体験された皆さんに、瑞穂鯨城会として同好会を立ち上げ瑞穂鯨城会ボッチャサロンを開設するか討議を行います。

**カラフルに パワフルに
めざせ100歳 P.P.K!**

ボッチャ広め隊
渡部 克己

〒457-0003
名古屋市南区鶴田2-5
市営鶴田荘E1-306
☎ 090-3306-4462



ボッチャ

[Boccia]

どれだけ多くの球を目標的 (ジャックボール) に近づけられるかを競う。チーム戦 (1チーム3人) は1エンド1人2球で6球。計6エンドで勝敗を決める

先攻(赤)

1 ジャックボールを投げる

2 持ち玉1個を投げる

後攻(青)

3 持ち玉1個を投げる

以後、ジャックボールに遠い方が球を投げていく



● ボールは275g (前後12gまでは可)

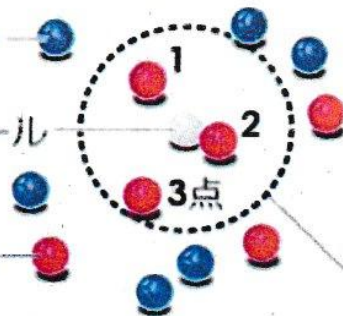
● 革製で、中にはプラスチックビーズが入っている



負けチームのボール

ジャックボール

勝ちチームのボール



勝敗のルール

ジャックボールを中心に、負けたチームのボールの内側に、いくつ勝ちチームのボールがあるかで点数が決まる

このエンドの得点は ● 3-0 ●

- ヨーロッパで考案された重度脳性麻痺もしくは同程度の四肢重度機能障害をもつ人のための対戦型スポーツ。赤のサイドと青のサイドに分かれ、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに向けて、選手が赤青各6個のボールを投げるあるいは転がす、ボールを手で持てない場合は、足で蹴るか、介助者の助けのもと勾配具(ランプ)と呼ばれる補助器具を使ってボールを転がして競技を行なう。
- 試合開始後、まず先攻サイドがジャックボールを投げ入れ、両サイドがすべてのボールを投げ終える区切り(エンド)ごとに、ジャックボールに赤青ボールをより近づけた側に得点が与えられ、その合計得点を競う。ボールをジャックボールや相手サイドのボールにぶつけて移動させることで、自身のサイドの形勢を有利にすることもできる。
- 男女の別なく参加でき、試合形式は個人戦(4エンド)、ペア戦(4エンド)、3対3のチーム戦(6エンド)があり、障害の程度によってクラス分けされる。
- ボッチャの起源は、古代ギリシアの球投げといわれ、6世紀にイタリアで今日に近いルールができた。20世紀に入り、重度障害者が参加できる競技スポーツとして整備され、世界中に広まった。1984年のニューヨーク/ストーク・マンデビル・パラリンピック競技大会で公開競技となり、1988年ソウル・パラリンピック競技大会で正式競技となった

独自ルール 草の根で人気

競技の練習をする「ボッチャサロ
ンみなみ」のメンバーら。名古屋
市南区の大成ふれあいセンターで

名古屋シニアにボッチャの輪

2024年8月30日 974頁

東京パラリンピックの競技「ボ
ッチャ」が名古屋市で高齢者に入
気だ。十年ほど前、市内の社会福
祉団体が参加しやすいように独自
のルールを設けたところ、楽しさ
を知った男性が交流の輪を広げて
いった。年齢や障害に関係なく競
技できる特徴が受けている。

(蓮野亜耶)

「ボールがコートを出て
しまったわ」やったね」。
七月、名古屋市南区の大成
ふれあいセンター会議室。
六十、八十代の十五人ほど
が感染対策に気を使いつ
つ、ボッチャを楽しんでい
た。窓を開け、全員がマス
クを着用している。

南区の渡部克己さん(80)
は二〇一四年に先妻を亡く
した際、話し相手が欲しく
て地元の高齢者クラブに足
を運んだ。ところが、参加
者は女性ばかり。「気後れ
して、なかなか集まりに行
こうという気持ちにならな
かった」という。

そこで、男性が仲間で楽
しめる趣味を探したとこ

愛好者 パラ機に普及期待

ろ、一六年にボッチャを知
った。球を投げたり転がし
たりして白い球に近い方が
勝ち、という簡単なルール
で参加しやすい。「初対面
の人とも盛り上げられる。地
域の集まりに参加しづらい
退職後の男性にはうってつ
けだ」と感じた。

楽しさを知ると、広めた
くなった。市内各区の社会
福祉協議会に「高齢の男性
が集まるようなクラブはあ
るか」を聞いてみたが、な
いところが多かった。十一
区で体験会を開催し、一九
年には南区で「ボッチャサ
ロンみなみ」を結成。昨
年、千種区で「CHIKU
SAボッチャ広めたい」が
発足するなど、裾野が広が
った。

市内で広がった理由はも
う一つある。十年ほど前、
熱田区社会福祉協議会が独
自のルールを作ったこと
だ。コミュニケーションセン
ターの会議室でも楽しめるよ
うコートに狭めたり、利用
時間を超えないよう打球回
数を減らしたりと工夫し、

場所にも困らないようにし
た。渡部さんが最初に知っ
たのも、この独自ルール
だ。
昨秋、千種区で開かれた
ボッチャのイベントには、
知的障害の女子高校生が参
加。「広めたい」メンバー
の二宮一公さん(60)と対戦
した。「いつの間にか彼女
の応援団が出来上がってね
え」と二宮さん。「頑張
れ」「うまいね」と大いに
盛り上がった。

名古屋社会福祉協議会
の担当者は「高齢者から市
内十六区対抗ボッチャ大会
を開こうという声が出るほ
ど人気は高い。県内にはパ
ラリンピック代表選手が二
人もおり、取り組む人の層
も厚いと思つ」と話す。
七十代の男性愛好者は
「ボッチャってのは障害者
だけのスポーツじゃない。
若い子も高齢者も一緒に楽
しめる。そうならたら、い
ろんな壁はなくなると思っ
よ」。パラリンピックを機
に、さらなる普及に期待し
ている。



ボッチャ 重度障害者のた
めに欧州で発案されたカーリ
ングのようなスポーツ。長さ12・5
メートル、幅6メートルのコートでジャックボー
ル(目標球)と呼ばれる白い球に向
け、赤と青のボールを交互に投げた
り転がしたりして、どれだけ目標球
に近づけるかを競う。相手との駆け
引きなど戦略性の高さが特徴。パラ
リンピックでは1988年ソウル大
会から正式種目になった。

